

2024年度 須磨学園夙川中学校入学試験

国 語

第 1 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

- すべての問題を解答しなさい。
 - 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
 - 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
 - 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。
- ※ 設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

先日、台湾のデジタル担当大臣オードリー・タンさんの講演をネットで聞きました。感染を防ぐためのマスクが不足する中、スマートフォンアプリを使って、^a早くみんなに行き渡るような仕組みを開発できたのはなぜか。行政でデジタル化が進んだわけについて話してくれました。

その答えの一つは「リバー・メンタリング」でした。リバーは、逆の、という意味です。メンタリングは、メンターと呼ばれる指導者が対話や助言によって気づきを与える指導法のことです。台湾では、得意分野を持つ三五歳以下の若い人が、大臣や行政の人たちにアドバイスする仕組みを、若者たちが国会議員に交渉して作ったそうです。他方、若者の中に、社会の課題をプロブレミングで解決するようなボランティアグループも育ち始め、みんなが協力したことで、すばやくマスクを手に入れるようなアプリができたとのことでした。もちろん、マスクの増産を一方で押し進めていきました。以来、マスクを求めて行列をしたり、探し回ったりすることなく、誰もが平等にマスクを手に入れることができるようになりました。デジタル技術は人のつながりも網（ネット）のように広がります。授ける人と受け取る人。贈る人といただく人。パンデミックの時だからこそ、より一層、気持ちも伝わりやすくなります。まさにAIの仕組みを理解し、利用する力をつけた人を育てていくことで、[↑]こうした社会を作っていくことができるのです。

もう一つ書いておきましょう。台湾にあったのはAIの技術だけではありませんでした。台北市内の歴史的な建物で、今は文化交流施設でもある中山堂にあった「性別友善厕所」。さて何でしょう。トイレであることは、ある年代以上の方はすぐわかります。私がまだ子どもだったころ、トイレを「厠」と言うお年寄りがまだたくさんいました。

さて台湾のこのトイレの入り口は一カ所で、「性別友善厕所」のプレートの下には、人の形をした二つのイラストがかかっています。暖簾をくぐって中に入ると個別の扉が左右に、全部で八つあり、それぞれ洋式、和式、立式の三種類の絵が描かれています。男女に分かれていないのです。女性用だけによく待ち行列ができることを考えてみれば、とても合理的です。性別友善とは日本でも理解が広まりつつあるLGBTQなど、性的少数者に配慮したトイレでした。この台湾訪問の時、台北、台中市内の幼稚園（幼稚園と保育園が一体化したもの）と小学校を案内していただきました。そこでは、いろいろな国や民族の言葉を受け入れようとする方針があることを知りました。台湾には、独自の文化や言葉を持つ「原住民」と呼ばれる人々が暮らしています。日本語の

「先住民」のような感じででしょうか。政府によって十六民族が認定されています

そうした状況をふまえて、二〇〇一年度より台湾の学校では、郷土言語教育が必修化されたそうです。言葉を理解し大切にすることは、背景にある歴史や文化、その中に暮らす人を理解し大切にすることにもつながります。

台湾の夜の文化として有名な夜市では、台湾だけでなく中国本土の様々な地域やアジア諸国の料理の屋台が並び、毎晩すごいカッ気です。多様な食べ物、文化を受け入れ、それが台湾らしさを作り出しているように見えます。「個性を尊重し」「多様性を許容する」なんて小ムスカしく考えず、身近な所に、日々の生活に、良いと思うものを旺盛に取り込んでいってしまう、芯の強さを感じます。

AIの開発が進み、効率よく問題を解決してくれる社会が近づきつつあります。しかしAIは、他者の立場に身を置き、相手を理解して問題解決することは不得意です。ここまでのところでも何度も述べてきました。

異なる考え方や背景を持つ人々を理解し、課題の解決に向け、時には妥協しつつ協同していくという、しなやかなありよう^{注4}が、予期していなかった状況に^eチョク面した際には、必要なのです。

人類の叡智である科学的なものの見方、考え方をもとに、世界に溢れる困難な状況をみんなで乗り越えていきたいものです。その叡智を集めたAIは、人類が作り出した強力なツールです。これをよりよく使うには、その仕組みを理解しつつ、弱い立場の人たちに思いを寄せる「共感力」を持ち、活用していく力が必要なのです。そのためには普段から、なんか変だな、不思議だな、と思ったら立ち止まり、どうしてそうなっているのだろうと考え、じゃあ変えてみよう、と行動することからはじまります。

（美馬のゆり『AIの時代を生きる』岩波ジュニア新書）

注1 AI……人工知能。コンピューターを用いた人工知能は部分的に人間の能力を超え始めている。

注2 LGBTQ……性的少数者のこと。同性や両性を愛する人、こころの性とかからだの性が一致しない人、あるいはこころの性のはっきりしない人などのこと。

注3 旺盛に……活動力がたいへんに盛んであること。

注4 妥協……ゆずりあって折りあいをつけること。

注5 叡智……優れた知恵のこと。

一の設問

問一 —— 線部ア「行政でデジタル化が進んだわけ」とありますが、その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

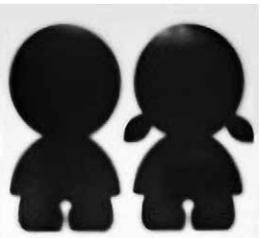
- 1 得意分野を持つ若者が行政の人たちなどにアドバイスできる仕組みが整えられ、それによって、マスクの増産をすることが可能となった。
- 2 ある分野に秀でた若者が、大臣や行政の人たちのアドバイスによってボランティアグループを結成し、社会全体で協力することが可能となった。
- 3 指導者が気づきを与えるメンタリングの指導法が確立され、ボランティアグループも誕生して社会全体が協力し合う体制が整えられた。
- 4 ある特定の分野に特化した若者が目上の人に助言できるシステムが作られ、社会の課題解決を目的とする有志のグループも誕生した。
- 5 「リバース・メンタリング」というシステムにより若者の持つ権力が増大し、大臣や行政よりもスムーズに社会を動かせるようになった。

問二 —— 線部イ「こうした社会」とありますが、これはどのような社会ですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 デジタル技術を適切に活用し、人と人との関係をより強固なものにしていくことができる社会。
- 2 デジタル技術やAIをメールやSNSに応用し、オンラインで気持ちを伝えることがより一般的になる社会。
- 3 AIを理解し、活用できるようになったことで、若者がより意欲的に社会で活動するようになる社会。
- 4 AIをその場その場の状況に応じて活用することで、非常時にも、より正確な政治判断が下せるようになる社会。
- 5 デジタル技術やプログラミングを用いて、指導者の意志がよりの確に人々に伝わるようになる社会。

問三 —— 線部ウ「とても合理的です」とありますが、ここでは、どのようにできることを「合理的」と言っているのですか。イラストの実物も参考にして、次の文の空欄に当てはまるように、二十字以内で答えなさい。

できること。



本文にある「プレートの下」の「イラスト」の実物

問四 —— 線部エ「それが台湾らしさを作り出しているように見えます」とありますが、筆者の考える「台湾らしさ」とはどのようなものですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 夜市の料理に見られるように、他国の文化でも、元から自国の文化であるかのように主張するところ。
- 2 台湾では、独自の言語や文化を持つ「原住民」と呼ばれる民族が多く生存しているところ。
- 3 言語学習を通して歴史や文化、人について学び、それを日常生活の中に応用させていくところ。
- 4 あらゆる価値観や多様性を受け入れ、人種や民族といった個性を大事にするところ。
- 5 身の回りのことや日常の生活に、自分たちが良いと思うものを積極的に取り込んでいくところ。

問五 —— 線部オ「芯の強さ」とありますが、これとは異なる、意味を表す表現を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 意思の明確さ
- 2 筋のまつすぐさ
- 3 軸のゆるがなさ
- 4 考えのがんこさ
- 5 精神のたくましさ

問六 本文全体を通して、筆者が最も伝えたかったのはどのようなことですか。次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 台湾の先進性
- 2 台湾の多様性
- 3 科学技術の素晴らしさ
- 4 AIの不十分さ
- 5 共感することの必要性

問七 〜〜〜線部a eのカタカナを漢字に直しなさい。

一九八六年四月二十六日、ソ連(当時)のチェルノブイリ原子力発電所で爆発事故が起こり、大気中に大量の放射能が放出された。数日のうちにヨーロッパ中が大混乱におちいり、市民生活にも多大な影響があった。次の文章は、そのチェルノブイリから約一五〇〇km離れた西ドイツ(当時)の都市ケルンで生活している日本人の少年を主人公とする物語である。少年は、小学校六年生にあたる年齢で、母親が長期の旅行から帰ってきたこの日は、原発事故からまだ一週間とたたない同年の五月一日である。この文章を読んで後の問いに答えなさい。

玄関をかけた所、気がついた。窓という窓がぜんぶあいていて、カーテンが **A** 帰ってきた、ママが！ 長くはなれていた親子が、しつかりと抱きあって、おたがいキスの雨を降らせる、というの、ドイツではごくあたりまえのことだ。が、いくらドイツにいても、ぼくたちは日本人、このやり方にはあわない。それどころか、開口一番、ママの口からとび出したのは、聞きなれた小言でしかなかった。

「いったい、どういうくらし方をしていたの？ このよごれ方は、どういうわけ？ よくもこんな……」

また、いつもの毎日が戻ってきた。ひさしぶりなのに、他に言うことは、ないの？

「ぼく、お昼を食べたら、すぐサッカーに行くから、早くお昼にしてくれない？」

ママは、ちよつと首をかしげ、困った顔でぼくを見る。

「あのね、トオル。サッカーはとうぶんお休みよ。さつきコーチから電話があったの。放射能さわぎがおさまるまで、練習はしません、て」

「どうしてさ。どういう関係があるんだよ、放射能とサッカーがおさえられないムカムカが、のどの奥からつき上げてくる。」

「放射能の濃度がどんどん高くなってるのよ。オーストリアで

は、子どもを外へ出さないようにとさえ言ってるわ。ドイツだって、小さい子どもは砂場や芝生の上で遊ばないようにした方がいいって、口伝えで広がってるみたい。特に、雨が降ったあとは、地面の放射能がすごいらしいの」

「まだ、雨なんて降ってないじゃないか」

ぼくは無意味な抵抗を試みる。

「トオル」

ママは、ぼくの目の奥をのぞきこむ。

「ねえ、いい子だから、私の言うことをきいてちょうだい。今度のことは、ただの事故じゃないのよ。人間のからだをポロポロにしてしまう放射能がまき散らされたの。子どものからだは特に敏感。だから、用心するにこしたことないのよ。わかるでしょ？」

ぼくは、ママの視線がうっとうしくて、横を向いた。

「ただごとじゃないんなら、どうしてさつきと帰ってこなかったのさ。そんなに心配ならとんで帰ってくるのが、あたりまえだろ」

するりと問題をすりかえてしまつて、自分でも少しいやな気がする。でも、そうなんだ、早く帰るべきだったんだ！

「そりゃ、そう言われれば、そうなんだけど。私も、まさかドイツにまで来るとは思わなかったから……ともかく、それは悪かったと認めるわ」

ママもなんだか歯切れが悪い。

「気まずい再会だった。それもこれも、みんな……」

ぼくはママの手をおしのけると、いっきに階段を駆け上がった。

一週間がすぎた。ぼくたちの生活の歯車は、すっかり調子が狂っている。学校では、スポーツが禁止された。食卓から牛乳と生野菜、それに卵が消えた。外から帰ったら靴を洗うこと、雨にぬれないこと、庭の手入れはしないこと……。あれもだめ、これもだめ。ちっ息しそうな毎日だ。

ママが台所に新聞の切り抜きを貼ったのは、五月六日のことだった。それには、ケルン市が属しているノルトライン・ヴェス

トフアーレン州からの通達事項が冷たい活字でならんでいた。

「野菜は、地面に葉が出ているホウレン草、サラダ菜は要注意。その他は、よく洗って食べることを。」

雨水は飲まないこと。

子どもは土の上、砂場、草の上で遊ばせないこと。地面との接触をさけること。野外での遊びはひかえるように。

子どもは野外で遊んだならば、シャワーをあびてよく洗うこと。雨具なしで長い間雨にうたれたりしないこと」

……こうした注意書きが九つも列をつくっている。

新聞をひろげても、「ガイガーカウンターが売り切れた」だの「ヨウ素剤を飲みすぎて中毒になった人がいる」だの「ケルン市の大気放射能濃度は……」「東欧諸国からの肉類をはじめとする食料品の輸入禁止」「母乳からも放射能が……」そんな記事ばかり。

家の中でも学校でも、放射能という目に見えないやつかい者の前で、みんな神経をとがらせてピリピリしている。

「粉ミルクの箱が一箱も見あたらないのよ。だれかが買い占めたんだわ。買い物してる人をよく見ると、みんな日付の古い冷凍食品やカン詰めをさがしているのがわかるのよ。アメリカからの輸入ものは、ほとんど残ってなかったわ。冷凍野菜も、ほら、このグリーンピースが最後の一箱。冷凍ケースはからっぽよ。チーズも古いものからなくなってるし。肉や魚も、みんなあんまり手を出さないわ」

買った物から帰るたびに、ママは大きなため息をつく。

「新鮮な野菜がうんと食べられる季節になったというのに……」

ママが旅行からもどつても、あいかわらず冷凍デイナーを食べ

ているわけだから、食事に対する欲求不満はつるばかりだ。

ドイツのお母さんたちは、この季節から夏にかけて市場に回るイチゴやラズベリー、サクランボなどの果物で、ジャム、コンポート(果物のシロップ煮)、ジュース、果実酒なんかを一年分

つくってしまふ。ママも、それを見習って、毎年、地下室にずらりとビンをならべる。

「ことしは、ぜんぶ、だめね。とてもそんな気になれないわ」

この季節を楽しみにしていたママは、二重三重にがっかりだ。庭も手入れをしなくなったので、雑草ばかりが目だっている。

ぼくのうちは、どちらかといえば、かなり神経質になって、あれこれ気を配りながら生活している部類に入るはずだ。

「おこってしまったことは、しかたがない。どんなにもがいても逃げる所はないんだし、いちいち気にしていたら生きていけない」と、今までどおりの生活をしている人もおおぜいいる。ここ一週間で、街の人たちは、この二つのタイプに大きく分けられるようになった。隣のリヒターのおばさんは、去年の春と同じように、バラの手入れに余念がない。

トオル、あなたのところは、少し神経質すぎはしない？ だいいち、こないだいいお天気なのに、あなたのようなびざかりの子が、家にとじこもってるなんて、それこそからだに悪いわ」

窓から首だけを突き出しているぼくに、かき根のむこうからおばさんの声がとんでくる。ぼくは、答えようがなくて、 **B** をすくめて見せる。

「やっぱ日本人は、神経質なのかねえ。ほら、あなたの国、戦争中に核爆弾にやられてるでしょ。だからアレルギーがあるって、よく言うじゃない。そうね、きつとそうだわ。でも、トオル、こんどのは、千何百キロもはなれてるから、大丈夫なのよ。パパやママに、そう言つときなさい。こんな天気のいい日に、子どもを家にとじこめておくのは、まちがってるって！」

(中澤晶子『あしたは晴れた空の下で』汐文社)

注1 ガイガーカウンター……放射線測定器。

注2 ヨウ素剤……身体に放射能が取り込まれるのを予防する薬。

二の設問

問一 空欄A、Bについて次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) Aにあてはまる表現として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 ひらひら泳いでいる！
- 2 ぼろぼろ泣いている！
- 3 ぺこぺこ謝っている！
- 4 げらげら笑っている！
- 5 ぐるぐる回っている！

(2) Bにあてはまる体の一部を示す漢字一字を次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 肩
- 2 首
- 3 耳
- 4 口
- 5 唇

問二 ~~~~~線部a~cについて、本文における意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

a 開口一番

- 1 よく考えもしないままに
- 2 大きく息を吸い込んで
- 3 口を広げて大きな声で
- 4 しばらく沈黙した後
- 5 話しはじめるとすぐに

b 冷たい活字

- 1 高圧的な言葉
- 2 かすれた文字
- 3 事務的な言葉
- 4 黒々とした文字
- 5 感情的な言葉

c 余念がない

- 1 体が勝手に動いている
- 2 怖れを感じていない
- 3 疑いをもつことがない
- 4 夢中になっている
- 5 こだわりを見せている

問三 ~~~~~線部ア「また、いつもの毎日もどってきた」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 原発事故の影響で不安を感じる日々が続いていたが、再び母親と過ごせることになってやっと安心したということ。
- 2 母親との久しぶりの再会であるのにも関わらず、いつもどおり小言を言われ、不満を感じる日々が再開したということ。
- 3 原発事故という大きな出来事を体験した後でも、母親に対する印象はそれまでと全く変わっていないということ。
- 4 母親と離れて過ごしている間、ドイツ流の生活になじめずいたが、これからまた日本の生活に戻ってくるということ。
- 5 母親に小言を言われながらも一緒に過したり、サッカーをしたりできる平和な日々が帰ってきたということ。

問四 ~~~~~線部イ「ちょっと首をかしげ」とありますが、このときの「ママ」の心情として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 外でサッカーをしたがるトオルに同情する気持ち。
- 2 練習中止を直接伝えないコーチへの怒りの気持ち。
- 3 非常事態にもんきなトオルをあわれむ気持ち。
- 4 事態を飲みこめていないトオルを不思議がる気持ち。
- 5 練習をしてくれないコーチにあきれかえる気持ち。

問五 ~~~~~線部ウ「ともかく、それは悪かった」とありますが、「それ」とはどのようなことですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「ママの視線がうつとうし」かったこと。
- 2 「さつさと帰ってこなかった」こと。
- 3 「とんで帰ってくるのが、あたりまえ」なこと。
- 4 「早く帰るべきだった」こと。
- 5 「ドイツまで来るとは思わなかった」こと。

問六 ~~~~~線部エ「それもこれも、みんな……」とありますが、「……」の部分にはどのようなことが省略されているのですか。次の文の空欄に、ここまでの本文中にある六字以上十字以内の語句を抜き出して答えなさい。

それもこれも、みんな [] のせいなんだ。

問七 ~~~~~線部オ「買い物」とありますが、「みんな」は、どのような考えで「買い物」をしているのですか。八十字以内で説明しなさい。

問八 ~~~~~線部カ「トオル、あなたのところは、少し神経質すぎはしない？」とありますが、「リヒターのおばさん」は「トオル」にどのようなことを伝えたいのですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 日本人は、いちど核爆弾にやられているため、放射能には人一倍気をつけるべきだということ。
- 2 日本人は、歴史的ないきさつから、放射能の恐ろしさに敏感になっているということ。
- 3 トオルの家族には、もっとドイツの文化を受け入れて生活する必要があるということ。
- 4 トオルの家族は、もっとチェルノブイリから離れた町に引っ越すべきだということ。
- 5 トオルの家族は、放射能の危険性を過度に気にしているのではないということ。

